



ごあいさつ

平成18年3月に土佐山田町、香北町、物部村が合併して誕生した香美市は、清流物部川の上中流域に位置し、537.86km²の広大な面積を有しています。中山間地域が大部分を占め、ニラ、やっこねぎ、ゆずの栽培など、第一次産業の盛んな地域であり、また土佐打刃物やフラフ作りは伝統産業として受け継がれています。そして日本三大鍾乳洞の一つである龍河洞やアンパンマンミュージアム、物部川源流域の豊かな自然と素晴らしい奥物部山岳地帯は多くの観光客に喜ばれています。

また、高知工科大学がある本市は、地場産業や地域社会と連携した産・学・官の相互的な協力や交流を行い、新しい産業の活性化にも力を注いでいます。さらに、防災対策や地方創生にも積極的に取り組み、住みよいまちづくりを進めています。

この市勢要覧は、活気あふれるまちの様子や市の施策などを紹介するものです。香美市のまちづくりへの理解を深めていただくとともに、魅力を感じていただければ幸いです。

香美市長
法光院 晶一





ごあいさつ

香美市は平成18年3月に3町村の合併により誕生し、平成28年に10周年を迎えました。本市は農林業を中心とする第一次産業が盛んであり、土佐打刃物やフラフの伝統産業の技術も継承されてきました。また、龍河洞、アンパンマンミュージアム、べふ峡などの観光地は多くの人で賑わっています。

合併後は、振興計画に沿ったさまざまな施策が展開されてきました。また、市民の融和も醸成されてきたと感じています。しかし、合併時3万人であった人口は、現在、2万7千人と約1割減少し、人口ビジョンにおいても更なる減少は避けることができません。

香美市議会は、この現実を直視し、二元代表制の一方の代表機関として執行機関との緊張関係を常に保持するとともに、議会本来の機能を強化、充実することによって、市民の皆様の負託に答えたいと考えています。

今後も日々、市民福祉の向上、また、本市の発展のために邁進することをお誓いし、市勢要覧発行のご挨拶といたします。

香美市議会議長
小松 紀夫

